

# ビオトープ・イタンキ通信 第13号

NPO法人 ビオトープ・イタンキ in 室蘭 2022年5月1日

NPO 法人 ビオトープ・イタンキ in 室蘭では「ホテル再び、人にやさしい街・室蘭」を合い言葉にビオトープ作りを進めています。原始のままの海岸線、鳴り砂の浜に続く草原の一角に、今は失われてしまった湿地を復元し、子供たちが生き物と触れ合える場の再生を目指しています。

## 20年を振り返って

大西 勲

- 1998年 トミヨ復活を目指し活動。「ビオトープ」という言葉を未だ知らない。
- 2002年 任意の会「ビオトープ・イタンキの会」を立ち上げる。
- 2005年 NPO法人に組織変更「ビオトープ・イタンキin 室蘭」
- 2006年 市の公園「潮見公園」内に許可を得て池の造成に着手。
- 2011年 6年かけて造成計画を完了。室蘭市と「ビオトープ憲章」を制定。

活動の始まりの頃から造成を完了するまで10年あまり、時間はかかりましたが、手本となる前例の無い中で、マア上手く行っている方ではないでしょうか。

現地は断崖絶壁に鳴り砂の浜、海浜植物の群落と段丘の草地、湧水の小沢が有る急斜面と小山などすでに幾つもの地形的・生物的要素がコンパクトに集中している土地ですが、ここに「水辺」と「海岸林」を加えることとなります。

「水辺」は砂質の土地であることから遮水の手当てが必要であり、地下1メートルの深さに遮水シートを埋設し、埋め戻して40～50cmの水深の浅い池・水路としています。同時に安全に配慮して、大型の雨水枡を2か所設置し、大雨で流入量が増えても溢れ出て水深が深くない構造にしています。

造成完了からすでに10年を過ぎ、造成の経過を知らなければ「昔からこんなだった」かのような自然な雰囲気になってきました。



造成工事の様子(2008年4月)

「海岸林」については潮風最前線に植樹する必要から市販の苗木には頼らず、2001年より、カシワやミヤマハンノキなどこの地の海岸線に自生する樹種を調べ種子を集め実生苗の育成に着手しました。2005年には育った苗木の定植が可能になり、この年に240本、2011年春までに2,000本、2020年には3,000本を超え、初期のものは5mほどに育ち、カシワ、ミヤマハンノキ、エゾノコリンゴなどの「小さな林」が出現しました。

新たに生まれた林床にはフクジュソウ、エンレイソウ、エゾエンゴサク、ナニワズなど多くの林床植物の導入・増殖を進め、早春から樹下に花も見られるようになってきました。でも、この林にセミの音が響きクワガタが繁殖するようになるにはまだまだ長い時間が必要です。

夢中で振った網に入ったトンボを捕まえるときの翅のブルブル、水草の陰を掬ったアミの中で跳ねるトンギョ。さほど遠くない将来、温暖化の影響が顕著に現われてくる困難な時代を生きることになり、これを克服していかなければならない子ども達にとって、ここ「獲物のあるビオトープ」での体験は、貴重で有益なものになってゆくことでしょう。